

# 校庭クスノキいすに再生

## 長岡京・長法寺小6年生が卒業制作

長岡京市の長法寺小の6年児童が、本年度に伐採された校庭のクスノキを使って丸太状のいすを制作した。長年子どもらを見守り続け、児童を熱中症から守るため姿を消した大木を無駄にしまいと企画。いすには同小の歴史や思い出を表す絵を描き「これからも後輩たちを守ってほしい」と期待を込めた。

クスノキは樹齢30年以上と、年創立の創立100年記念みられ、長法寺小（1872）で植えられたとも伝わる。高



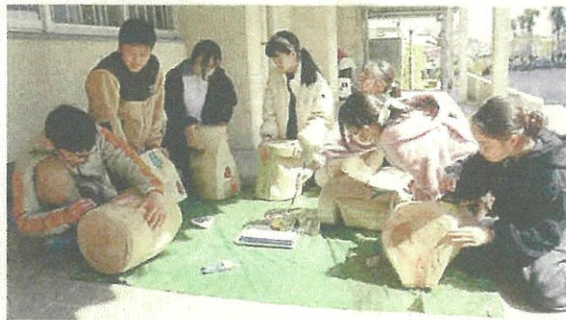
校内にあったクスノキを使って児童たちが作った丸太いす  
(長岡京市・長法寺小)

さは隣接する体育館の屋根を越えるほどあり、長年児童に親しまれてきた。

だが熱中症対策のため体育館に空調設備を導入することになり、室外機を置くためにクスノキの伐採を決定。同小



丸太いすに絵を描く児童たち  
(長岡京市・長法寺小)



樹齢30年超、空調設備設置で伐採

## 「学校ずっと見守って」

が児童にクスノキへのメッセージを書いてもらう「クスノキありがとうボード」を設置したところ「クスノキで何かを作りたい」という希望が寄せられたことから、6年生の卒業記念として丸太いすを作ることにした。

クスノキは昨年5月に伐採。12月に地元の建築会社「ダイセイ」の職人らの協力も得て、丸太状に切ったり、磨いたりしていすに加工した。

今月16日に行った作業では、七つの丸太いすに校章や、かつて授業の合図に使われた同小のシンボリックな「楽信の鐘」などを児童が描いた。同小のキャラクター「らくちゃん」「しんちゃん」、150周年記念で植樹されたレモン、花壇のチューリップなども描かれ、児童の思い出が鮮やかに刻まれたいすに仕上がった。

クスノキについて6年の児玉瑠香さん(12)は「木陰は涼しくて休める場所だった」、吉田なでし子さん(12)は「大きく守ってくれそうな木だったので、なくなつてさみしかった」と振り返る。丸太いすは学校で活用する予定といい、山本琴美さん(12)は「学校の歴史に残ってほしい」、新田大登さん(12)は「これからも学校のことを見守ってほしい」と話していた。

(山田修裕)

かつて長法寺小の体育館  
近くにあったクスノキ  
＝同小提供

## くすの木が「丸太いす」に変身！

体育館の空調整備に伴う室外機設置のために伐採した「くすの木」がこの度、地域の方々のご協力により、7つの丸太いすに生まれ変わりました。くすの木の加工に当たっては、株式会社ダイセイの大橋さんが、大工の仕事や木の種類や特徴などをお話ししながら、解体作業を見せてくださいました。また、子どもたちに斧やチェーンソーで木を切る、木材を磨くなど貴重な体験をさせていただきました。

出来上がった「丸太いす」が届くと、学校の玄関中に木のいい香りが立ち込め、触れると温もりを感じました。その後、木のよさを活かしつつ、卒業生たちが卒業の記念として「楽ちゃん信ちゃん」「校章」などの絵を思い思いに描き、完成！子どもたちの「想い」が形になりました。安らぎのイスとして大切にしていけるとともに、「人と自然がともに生きる環境」について考える一助となり語り継がれていければと思います。ご協力いただいたみなさん、本当にありがとうございました。

